時事新報定價

時事新報は毎號八面乃至十二面にして詳細の商況物價報告あり其代價遞送料廣告料は左の如し

一枚二錢〇一箇月前金五十錢〇三箇月前金一圓五十錢〇六箇月前金三圓〇一箇年前金六圓〇月曜休刊

○時事新報社ヨリ直接ニ郵送スルモノハ右定價ノ外ニ一箇月十三錢ノ遞送料ヲ申受ク

時事新報廣告料(前金)

一行五號活字廿四字詰	一日限	一日以上六日迄	七日以上
一行ニ付	十三錢	十一錢	十錢五厘

本社へ寄稿に付

東京府下を始め各府縣に通信社なるものありて是より各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を填塞するより各社同一の記事を掲ぐるもの尠からず獨り時事新報社は社員並に通信員の多きを以て斯類の社に通信を依賴せずと雖も世間往々此事を知らずして通信社にさへ報道すれば本社にも其報道は達する事と信ずる方多きが如し爲めに行違ひを生じたる場合も尠からざれば本社に記事論説を寄稿せんとする方は直接に本社に向け發送あらんことを請ふ

時事新報

民黨の前途

一兩年來の政況を察するに所謂民黨の所論は餘りに急激に走りて頗る一般の人氣を失ひたるものゝ如し蓋し民黨は最初より取て代はるの一事を目的として飽くまでも政府の失策を攻撃し人心の離るゝに乘じて一時に志を逞ふせんとするの希望なりしならんなれども政府の地位は案外に固くして容易に目的を達するを得ざるのみならず漫に急激の論を唱へて之を實にする能はざるより却て自から厭はるゝに至りたるこそ是非なき次第なれ左れば進んでは其希望を達する能はず退いては人心を收むる能はず進退共に不可なるは正に民黨今日の境遇にして或は後來の成行を氣遣ふものもなきに非ざれども我輩は民黨の前途甚だ多望なるを疑はずして今日は決して落膽失望す可きの時に非ざるを其人々に勸告せんとするものなり抑も民黨本來の主義は敢て政權の授受を爭はんとするものに非ず唯日本の政治上に改進々歩の新主義を導き專制の舊政弊を一掃して文明自由の政を行はんとするの目的にして彼の自由黨の如き改進黨の如き其主義綱領に宣言する所は素より此目的に外ならず左れば實際の擧動に就ては幼稚なる政黨の常として多少の非難は免る可らずと雖も政治上に進歩の主義を執るの一段は我輩の大に望を屬する所にして殊に立憲政治の今日に於ては更に一層の盡力を望まざるを得ず即ち今の時代は漸く專制の舊習を脱して正に文明立憲の門に入らんとする大切の機會なれば新主義を代表するの任に在るものは細に事の關係に注意して着實に運動し深く其主義を愛護して無事の成長を謀るこそ當然なるに其人々が事に當りて成功を急ぎ國會開設の一擧に滿腹の得意を擅はして百年の計を一朝に決せんとしたるは智慮經驗の足らざるものと云はざるを得ず例へば政府の改革に就ても其宿弊は年來の病にして恰も慢性の症に陷りたるものなれば治療の方法は成る可く徐々にして始めて效を奏す可きに突然激劑を施して却て病を激せしむるの危險を悟らざりしが如き又責任內閣の制は西洋文明國に於ても數十百年の經驗を閲して習慣を成したるものを咄嗟の間に試みんとしたるが如き何れも智者の事と云ふ可らず其言ふ所行ふ所に伴はずして徒に急激に走り世間の人氣を失ひたるも素より其所にして怪しむに足らざれども之が爲めに一般の世人をして進歩の主義を云へば民黨の口實なるが如く又過激破壊の別名なるが如くに思はしむるに至りたるは我輩が民黨の爲めに惜しむ所なり畢竟その人々が年少氣鋭、事の易きを見て其難きを察せず一氣呵成に目的を達せんとして斯る失策に陷りたるものなれども既往の事は今更ら如何ともす可らず自今以後は其身構を改め着實に運動して過を再びせざるの用意こそ肝要なれ其運動着實にして苟も守る所を變せざるに於ては次第に人氣を回復して局外の士人中にも同情を表するものあるに至る可きは申すまでもなく元來政治上の變化は遲きが如くにして却て速に其進歩は往々人の意想外に出るの常にして大勢の赴く所は留めんと欲して留む可らず次第に從來の宿弊を去りて遂に文明進歩の實を見るに至るの期も敢て遠きに非ざれば民黨の人々は漫に事を急にして其勢を逆行せしむるの愚を爲さず須らく其望を大にして未來の好結果を收むることに勉む可きのみ且又その一身の爲めに謀るも我輩の所見を以てすれば前途の望決して少なからず今日の有樣に於て責任內閣の實行は容易に望む可らずと雖も當局の老政客を見れば何れも五十以上五十近き年齡にして單に生理より云ふも政治上の生活は最早や長きを期す可らざるや明なり老政客いよく老して事に堪へず端なく更迭の機運を催はすに當り扨その後任者を如何す可きやと云ふに政府部內には二流三流の政客もありて自から其人に乏しからざる可しと雖も政界の進歩は今日の事態を一變して政府の地位は獨り其部內の專有を許さゞるのみならず殊に政黨の人人も漸く自から省みて年來の擧動に人氣を回復して世間の信用も盛なるに至れば其人々を外にして政府を組織すること到底行はる可らず即ち政治上に一大變化を致すの時にして少なくも朝野聯立の內閣を見ざるを得ず而して其時節到來の機は近くは三五年遠くも十年を出でざるは數の明白なるものなれば前途の望決して空漠なりと云ふ可らず民黨の人々が其時に至り果して圓滿の結果を收むるや否や唯今後の擧動如何に在るのみ我輩は其人々が從來の擧動を改めて着實を旨とすると同時に其守る所を永く失はずして前途の望を空ふせざらんことを希望するものなり

官報

○農商務省訓令第三十二號

大林區署

明治二十三年二月當省訓令第五號出納官吏任命規程第二條第三條ニ左ノ但書ヲ追加ス

明治二十五年十一月八日

農商務大臣伯爵後藤象二郎

第二條

但甲小林區署長又ハ派出所首席者ヲシテ乙小林區署長ヲ兼子シメタルトキ乙小林區署ノ收入官吏ハ別ニ當林主事補ニ命スルモノトス

第三條

但甲派出所首席者又ハ小林區署長ヲシテ乙派出所首席者ヲ兼子シメタルトキ乙派出所ノ收入官吏ハ別ニ當林主事補ニ命スルモノトス

農商務省訓令第三十二號參照

農商務省訓令第五號出納官吏任命規程(明治二十三年二月十二日)抄

第二條　小林區署ノ收入官吏ハ當該小林區署長ニ命スルモノトス

第三條　派出所ノ收入官吏ハ當該派出所首席者ニ命スルモノトス

○農商務省訓令第三十三號

道廳　府縣

水產上特ニ調查ヲ要スル儀有之別冊表式ニ基キ取調來ル明治二十六年三月三十一日限リ當省ヘ差出スヘシ

但別冊表式ハ主務局ヨリ交付スヘシ

明治二十五年十一月八日

農商務大臣伯爵後藤象二郎

○遞信省告示第二百六十九號

本月十六日ヨリ京都郵便電信局五條橋郵便支局ニ電信取扱ヲ開始シ京都郵便電信局五條支局ト改稱ス

明治二十五年十一月八日

遞信大臣伯爵黑田淸隆

雜報

○正誤　昨日の本欄內井上角五郎氏の外交策と題する項中支那朝鮮と電信條約を結びたる時日を十七年七月と記せしは十八年七月の誤り又朝鮮政府へ十七萬圓貸與云々は正金銀行をして十七萬圓を朝鮮政府に年利八朱の約束にて貸さしめ內四朱は金額の本利二朱は正金銀行の手數にして殘餘金凡そ二萬千圓を今回朝鮮政府に返へし與へたるものなりとのことに付正誤す

○朝鮮京城通信　(十一月一日發)

南兵使露人を雇入る　去る陰暦八月中旬咸鏡道北青地方へ旅行せし人の話を聞くに同地には陰暦七月頃より六名の露國人滯在せり土地のものに就て聞くに右は銃器製造人にして南兵使李容翊氏の雇入れに係り目下器械取寄せの爲め人を露領に送り其來着を待ち居るものなりと云ふ又或る人は露國罪囚の逃亡し來りたるものなりと云へり依て同人は南兵使に面會せし時其何の爲めなるやを尋ねたるに彼等が器械を取寄せ製造すと云ふにより自然廉價に銃器を得べしとの考より其製造を托したるなりとの事にて頗る漠然たる答なりしと云ふ其は兎も角も此六名は時々街路を徘徊し當國にて最も嚴重なる男女の別を辨へず動もすれば婦女に戯れ無禮の擧動あるを以て此頃は營內の一室に住居せしめ濫に外出を許さゞるよしなり

淸國領事の天津行　淸國領事唐紹儀氏は釜山海關吏より現職に轉じ當國に在る事既に十餘年頗る內外の事情に通じ昨年袁世凱氏の歸國中は其代理をなせし人なるが何か急用を帶び李鴻章氏に打合せの事ありとて去る十六日天津に向ひたり

武富大尉の歸着　武富大尉の內地を旅行せし事は嚮に報道したるが氏は去月三日仁川港解纜の軍艦鳥海にて大同江を溯り平壤に赴き夫より陸路江東成川陽德等の地を經十四日元山津に出で十七日發程江原道沿岸に向ひ歙谷、通川、高城より有名なる金剛山に上り山寺を歷見し淮陽、昌道、金城、金化、鐵原、永平、抱川、揚州等を經て去る二十七日京城に歸着したり

○農科大學生徒運動會　農科大學生徒秋季陸上運動會は去る五日午前八時より同校構內運動場に於て執行したる由なるが今其模樣を聞くに當日運動場の正面には皇太子殿下の假御座所を設け入口其他三ヶ所の縱門には菊花等を以て種々の裝飾を爲し又三十間餘の幟竿二本に各國の信號旗を蜘手に吊し朝風に飜したる有樣は誠に勇々しかりしと扨例刻前より詰掛けたる來賓は場の中央に充滿したるが暫時にして加藤會長、松井幹事長、志賀審判長等着席するや各生徒は思ひくの扮立にて順次合圖に應じて運動場に進行し夫々競爭を爲したる由にて其中最も面白かりしは障害物競爭數番にして又最後の千ヤード競爭も隨分見事なりし此優勝者は特別一等賞(金牌)針塚長太郎氏にして其他は一等賞(銀牌)安田伊左衛門二等賞(同)星野仙之亟の二氏なりしが折柄午後一時前より降出したる雨は追々劇しくなりて何れも濡鼠の如くなりたるも同四時過迄に悉皆の番組を了り餘興等ありたる由又當日皇太子殿下は遂に行啓なかりし由なり

○雨天順延せず　別項に記したる如く去る五日の駒場農學校生徒秋季陸上運動會は當日
なりしにも拘らず遂に雨中競爭を
が招待券に雨天順延とありたるを以
と云ひ朝來よりの好天氣に遠方よ
の頗る多く正午時頃には同校門外
の如くなりしも校內は寂々として
ば何れも失望して小言たらく歸

○出張醫の紀念會　昨年濃尾震災
海軍大學、赤十字社の各醫官其他
る六日夜麴町區富士見軒に會し一
當時の慘狀を談じ且つ將來震災醫
協議したり

○新額に授章者なし　去る二日美
銅章を受けたる者は左の如し

銀章

柳鷺圖　岸　竹堂　義興
山村行旅圖　川端　玉章

銅章

海邊秋景圖　鈴木　松年　秋圃
秋山暮靄圖　野口　小蘋　秋景
草廬三顧圖　佐竹　永湖　吉川
大異敎心經圖　大庭　學仙　荒

の十一氏にて本年は繪畫の數例年
ず名家の出品少なく殊に瀧和亭、
審査を乞はずとの箋を附したれば
ものゝ如く右授章者の姓名を見れ
にて名に由り章を授けるの嫌なき
然る事のあるべき筈なく幕下は何
の有限の畫伯連中へ印累々綬若々
らんが銀章は兎もあれ銅章中に一
非なけれ

○二年越の密畫　今度上野公園の
て銀章を授りし川邊御楯氏揮毫の
橫額地極彩色の密畫にて胸中千軍
走らす云々との褒詞を受けし程
曠原の中を新田足利の兩軍入れ違
る狀優美壯快慘憺兼ね具はりて何
めざる者なし聞く氏が此の密圖を
越しの日子を費せし由なるが皇后
せ給ひたる節御用品仰付られしけ
事ならんといふ

○神泉亭の花壇菊　根津の神泉亭
設けし處殺風景なりとの評を受け
に改めたり後園に二十種栽たる菊
其傍の室には大盆栽菊八九鉢を
へ扱け得べき築山泉水の手前に
咲きの名花にて染井より取寄せた
離座敷にも各種の盆栽盆庭を陳列
の少なからず平日は無料にて縱覽
に限り更に活花を飾りて見料二錢

○萬紅葉　楓、錦木、櫨、柿等紅葉
る樹木多き中に大松の梢まで這ひ
し狀は一種特別の風致あり根津神
て右手に在る老木の蔓綠櫻は幹に
より橫に廣がり枝々地を掃ふて四
し眺めは美觀なるが目下悉く紅
宛ながら靑天に雨脚を見る如き

時三十二分、五時九分、八時四十六分〇(上リ)　午前七時十九分、十時五十六分、午後二時四十四分、六時三十一分●高崎發　午前六時三十八分、十時二十六分、午後二時二十二分、六時△佐賀發(鳥栖へ)　午前七時十分、十時十分、午後二時四十分、六時二十二分●佐賀發(鳥栖へ)　午前八時四十二分、午後零時三十二分、四時二十二分、八時二分

○水戸鐵道發車時刻　小山發(水戸へ)　午前六時四十分、九時十五分、午後二時十五分、五時二十分●水戸發(小山へ)　午前六時二十分、十時　午後二時四十五分